

※※2016年4月改訂（第4版）

※2009年9月改訂

日本標準商品分類番号

8 7 2 7 3

歯科用 鎮痛・鎮静・消毒剤

## ※フェノール・カンフル歯科用消毒液「昭和」

PHENOL with CAMPHOR DENTAL DISINFECTANTS “SHOWA”

（日本薬局方 歯科用フェノール・カンフル）

※規制区分：劇薬

貯法：遮光、密栓して室温保存

使用期限：5年（外箱に表示）

※承認番号	22100AMX01594000
※薬価収載	2009年9月
販売開始	1956年5月
再評価結果	1982年8月

### 【組成・性状】

有効成分	1g中
(日局) フェノール	350mg
(日局) dl-カンフル	650mg

#### 〈製剤の性状〉

本剤は無色～淡赤色の液で、特異なおいがある。

### 【効能又は効果】

齶窩及び根管の消毒，歯髄炎の鎮痛鎮静

### 【用法及び用量】

通法にしたがって齶窩及び根管の処置後，本剤の適量を滅菌小綿球又は綿繊維に浸潤させて窩内あるいは根管内に挿入し，仮封する。

### 【使用上の注意】

#### 1. その他の副作用（頻度不明）

過敏症 過敏症状があらわれることがあるので，このような場合には使用を中止すること。

#### 2. 適用上の注意

- (1) 浸出液の多い根管への適用は根尖部の刺激性が増加するので，使用を避けること。
- (2) あらかじめ局所を十分乾燥してから本剤を使用すること。
- (3) 軟組織に対し局所作用をあらわすおそれがあるので，口腔粘膜等へ付着させないよう配慮すること。
- (4) 軟組織に付着した場合は直ちに拭きとり，エタノール，グリセリン，植物油で清拭するか又は多量の水で洗う等適切な処置を行うこと。
- (5) 歯科用にのみ使用すること。

### 【薬効薬理】

フェノール・カンフルは古くから歯科領域で消毒剤，鎮痛剤として繁用され，その優れた抗菌作用，歯髄鎮痛作用が認められている<sup>1), 2)</sup>。

フェノールとカンフルは配合後，湿潤液化して分子化合物を生成し<sup>3), 4)</sup>，カンフルはフェノールの局所に対する毒性を低下させ<sup>5)</sup>，また，抗菌力の面でフェノールに協力することが確認されている<sup>4)</sup>。

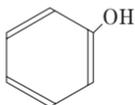
## 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：フェノール (Phenol)

分子式： $C_6H_6O$

分子量：94.11

構造式：



性状：無色～わずかに赤色の結晶又は結晶性の塊で、特異なおいがある。エタノール(95)又はジエチルエーテルに極めて溶けやすく、水にやや溶けやすい。

10gに水1mLを加えるとき、液状となる。光又は空気によって徐々に赤色を経て暗赤色となる。また、皮膚を侵して白くする。

凝固点：約40℃

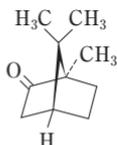
一般名：*d*/-カンフル (*d*/-Camphor)

化学名：(1*RS*, 4*RS*)-1, 7, 7-Trimethylbicyclo[2, 2, 1]heptan-2-one

分子式： $C_{10}H_{16}O$

分子量：152.23

構造式：



及び鏡像異性体

融点：175～180℃

性状：無色又は白色半透明の結晶，結晶性の粉末又は塊で，特異な芳香があり，味はわずかに苦く，清涼味がある。エタノール(95)，ジエチルエーテル又は二硫化炭素に溶けやすく，水に溶けにくい。また，室温で徐々に揮散する。

## 【包装】

15g

## 【主要文献】

- 1) 吉村泰治：歯基礎誌 9 (3), 110～129 (1968)
- 2) 南 直臣：歯科医学 23(6), 1860～1906 (1960)
- 3) 長尾喜景ほか：歯科学報 51(2), 35～38 (1951)
- 4) 真泉平治：歯学 44(1～2), 3～15 (1956)
- 5) 真泉平治：臨床歯科薬理学 (永末書店) 64～65 (1971)

## ※※文献請求先・製品情報お問い合わせ先

昭和薬品化工株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目17番11号

TEL：0120-648-914

FAX：03-5579-9592

〈受付時間〉9：00～17：30（土・日・祝日・当社休日を除く）

※※



製造販売元

昭和薬品化工株式会社

東京都中央区京橋二丁目17番11号

6512J-16TA